

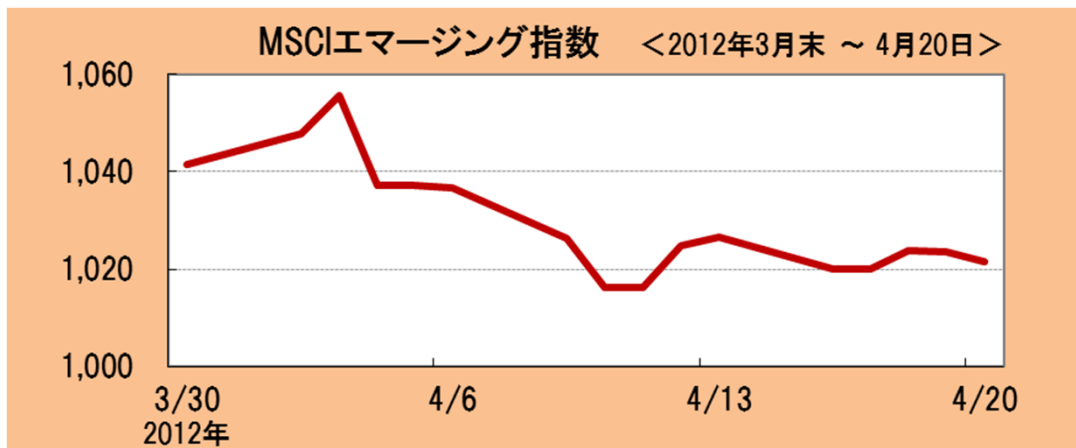
新興国株式市場

作成日：2012年4月20日
作成者：岡橋 雅雄

■4月の動向：インドネシア、フィリピンは続伸、ロシア、ブラジル等は下落。

主要な新興国の株式市場の動きを表すMSCIエマージング指数は、4月20日までの期間で前月末比1.9%の下落となりました。

インドネシア及びフィリピン市場が堅調な経済成長が続くとの見方などから続伸、中国及び南アフリカ市場も反発しましたが、その一方でロシアやブラジル、エジプトなどの市場が下落する結果となりました。



データ：Bloomberg

直近1年の動き



データ：Bloomberg

■BRICs各国の月間株価指数騰落率（4月20日現在、前月末比）

中国 上海総合指数	インド SENSEX指数	ロシア RTS指数	ブラジル ボベスパ指数
+6.4%	-0.2%	-1.1%	-3.1%

■注目新興国各国の月間株価指数騰落率（3月26日現在、前月末比）

南アフリカ TOP40指数	エジプト ヘルメス指数	インドネシア ジャカルタ総合指数	フィリピン フィリピン総合指数
+2.0%	-4.9%	+1.5%	+1.0%

データ：Bloomberg

【市況概況】

米国の雇用統計で非農業部門雇用者数の伸びが事前予想を下回ったことや、イタリア及びスペインの国債利回り上昇（価格は下落）を受けたユーロ圏債務問題が深刻化すると懸念の高まりなどが弱気に作用したことで、新興国株式は台湾や韓国、ブラジルなどを中心に軟調推移となりました。

■中国（上海総合指数）

中国当局が景気の下支えを目的に金融政策を緩和し、インフラ関連の財政支出を拡大すると観測が高まったことで、前月末から反発する動きとなりました。

■インド（ムンバイSENSEX指数）

アジア開発銀行やクレディ・スイスが経済成長率見通しを引き下げるなど、景気の先行きに対する懸念の高まりに相場が圧迫されたものの、インド中央銀行が2009年以来の利下げに踏み切ったことなどのサポート要因もあり、安値から大きく下げ幅を縮小する動きとなりました。

■南アフリカ（TOP40指数）

欧州債務懸念などを嫌気して下落する場面もありましたが、中国が景気押し上げのために金融政策を緩和すると期待感が高まったことに加え、南アフリカの製造業指数や小売売上高などの景気指標が予想を上回ったことなどの好材料もあり、上昇する結果となりました。

■エジプト（ヘルメス指数）

5月の大統領選挙に向けて政治的な混迷が続いていることを嫌気した投資家の売り圧力の強まりなどから一時大幅に下落し、その後下値警戒感の高まりを受けて下げ幅を縮小しましたが、ユーロ圏債務問題の深刻化懸念などの弱材料もあり、前月末を下回る水準で推移する軟調な展開となりました。

【今後の見通し】

欧州債務問題に対する警戒感や、先進国経済のスローダウンに対する懸念などは上値抑制要因ながら、新興国中央銀行が総じて金融を緩和する傾向にあることがプラスに寄与し比較的高い経済成長を継続すると見込まれることから、新興国の株式市場は総じて堅調に推移するものと予想しております。

【 注 意 事 項 】

- 当資料は、情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は、キャピタルアセットマネジメント株式会社が、信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料におけるデータ・分析等は過去の実績に基づくものであり、将来の運用成果および市場環境の変動を保証もしくは示唆するものではありません。